

一橋大学フェアレイバー研究教育センター 連載終了にあたって

高須裕彦 一橋大学大学院社会学研究科/フェアレイバー研究教育センター

一橋大学フェアレイバー研究教育センターによる連載は、本号をもちまして終了いたします。二〇〇七年七月下旬号からスタートした連載は、九年八カ月一四回を重ねました。当センターが引き継いだ国際労働研究センター（創設所長・戸塚秀夫東京大学名誉教授）の連載は一九五五年一二月月上旬号からスタートしましたので、それを通算すると二年余、一九三回に及ぶ連載になりました。この長期の連載を支えてくださった多くの読者の皆様に感謝します。そして、長年にわたり連載誌面を提供してくださった旬報社ならびに本誌編集部に御礼申し上げます。

戸塚秀夫さんは本誌一九九五年一二月月上旬号で、国際労働研究センターの目的について、「経済の世界大化 (globalization)、地域大化 (regionalization) が進展するに伴って、労働者が国境を越えて連帯活動を強める必要はますます強まっております。日本でも既存の労働組合だけでなく、『草の根』の任意組織の国際活動が広がっている。このセンターはそれらの組織と連携しながら、労働者間、研究者間の国際的コミュニケーションを深め、一国の枠を超えた国際労働

研究 (Transnational Labor Studies) の領域を開拓することによって、日本の労働・社会運動の再興にささやかな貢献をする」と提起されました。その戸塚さんは二〇一七年一月二十九日に死去されました。私たちは戸塚さんの提起にどこまで応えることができたのか連載を振り返りつつ自問しているところです。

これまでの連載のなかで、私たち労働者が直面する様々な課題について多数のみなさんに論じていただきました。歴史的な記録として残しておくべき労働運動のリーダーや労働者の証言記録、欧米やアジア、日本の労働運動、労働政策、労働教育について論じた論文もあります。掲載論文は、二〇一八年三月末までは当センターのサイトからPDFファイルダウンロードできますので、ご活用ください。

ところで、当センターは設置期間の終了にともない、二〇一八年三月末廃止することになりました。当センターは、二〇〇七年に、フェアレイバー (公正な労働) を求め、社会に開かれたセンターをめざして、労働組合やNPOと連携しながら、実証的かつ参加型の研究教育活動

を目的として発足し、労働者と研究者が共同で研究し、議論する開かれた研究会活動をベースに活動を続けてきました。

「社会運動ユニオニズム研究会」では、実践家のみなさんと共に、労働運動再生への糸口を社会運動ユニオニズムに見出し、日本での運動実践をふまえ、新たな可能性を探る議論を行なってきました。「労働教育研究会」は、高校教員や労働行政に携わる職員、労働弁護士、労働組合、労働安全衛生センター、研究者などの参加を得て、高校や大学における労働教育実践の交流とカリキュラム開発に力を置いて活動を進めてきました。

これらの研究会を含む当センターの事業の多くは二〇一七年度に新設される法政大学大学院フェアレイバー研究所 (所長・浅見靖仁法政大学法学部教授) が引き継ぎます。今後も、ご支援、ご協力、ご参加をお願いいたします。

(たかす ひろひこ)

【連絡先】

- ◆ 一橋大学フェアレイバー研究教育センターTEL〇四二・五八〇・九一三九 (二〇一八年三月末まで)
- ◆ 法政大学大学院フェアレイバー研究所TEL〇三・二六四・九三九五 (浅見研究室)
- ◆ e-mail: takasu@caapc.org (高須裕彦)
- ◆ フェアレイベー研究教育センター連載論文のサイト (各論文のPDFをダウンロードできます)
<http://www.fair-labor.soc.hi-u.ac.jp/publication.html>